地域振興は人づくりから――地方に根ざし、世界にはばたく新潟県立大学

University of Niigata Prefecture

2009.12
No.2
新潟県立大学ニュース

2P 学長室から

3P 学科紹介

2P 学長室から

4･5P 学友祭

4･5P 学友祭

3P SALC

Contents

学長室から　2
センター紹介「キャリア支援センター」　2
学科紹介「国際地域学科」　3
学友祭　4・5
学生の声　6
教員の横顔　7
入試情報＆ご案内　8

学長室から

FROM PRESIDENT

TOPIC 1

2009年8月3日に新潟市と包括連携協定を締結

新潟市との包括連携協定を締結しました。相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。市民の皆様から賛同を得られるような協定としたいと考えています。地域との連携を深め、まずは地元から頼られる大学となるよう出来るところから様々な取り組みを進めていきます。

TOPIC 2

2009年11月6日に開催された、東方学会第59回全国会員総会（於：日本教育会館）のシンポジウム「アジア・バロメーターの展開」の中で

全アジア地域（29カ国）で行った、人々の日常生活に焦点を当てているアジア・バロメーターの分析と知見をアジア研究を専門とする伝統ある東方学会で発表しました。今年も続けています。環境と健康を中心に東南アジア10カ国で行っています。春には分析と知見を皆様と共有できると思います。

TOPIC 3

韓国の大学との協定締結

新潟県立大学は東アジアの大学と提携して積極的に外国語研修を進めています。新設後最初の提携調印式が新潟で行われました。慶尚北道の大邱にある大学です。まだ新しい小さな大学です。大邱は新羅という古代韓国国家の中心であり、韓国の国家主導経済発展を推進した軍事政治経済指導者を輩出したところです。農業も工業もめぼしいものはないので、人的資源で天下国家を取り仕切った指導者が出てきたそうです。現在は首都のソウルの衛星都市のようなところで、静かな環境で勉強ができるそうです。短期留学など、具体的な交流活動を開始出来たらと思います。

センター紹介

INTRODUCTION TO THE CENTER

キャリア支援センター

センター長 坂口　淳
〔国際地域学部 国際地域学科 教授〕

卒業後の進路を見据えたキャリア支援体制

大学入学は受験生にとって、最終到達地点のようなイメージがあるかも知れません。しかし、多くの大学の授業で「○○学入門」という授業が開設されていることをみて分かるとおり、大学での学習は専門学問分野を学ぶための入り口に過ぎません。

さて、わが国の平均寿命は男性が79.0歳、女性が85.8歳（厚生労働省平成18年簡易生命表より）となっています。このため、おおよそ「人生は3万日（約82年）」ということになります。この3万日を3つに分け、「初期の1万日は学ぶ時期、中期の1万日は社会で働く時期、後期の1万日は遊ぶ時期」という人がいます。大学教育は学ぶ時期である1万日（約27歳）の最後の段階であり、自己を確立し、社会へ羽を広げる時期となります。大学の4年間は、次の2万日が決定されるものではありませんが、社会で働く時期へ円滑に移り行くためには、大学生活をはじめとして、広い社会に目を向けてゆく必要があると思います。

新潟県立大学キャリア支援センターは、大学開学と同時に設置されました。キャリア(career)とは、職業、経験という意味がありますが、職業指導や進路指導の分野では近年「キャリア教育」というものが行われていて、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」を高校の進路指導の活動等で推進されています。国際化が進む現代社会において、産業・経済の構造は変化し、雇用形態も多様化が進んでいます。この厳しい社会を歩いていくためには、常に自分の進路を確認し（キャリアパスの設定）、目的意識を持つことが望まれています。

キャリア支援センターでは、開学の段階から立ち上げ、常駐職員2名を配置し、学生自らが主体的に卒業後の進路選択・決定ができるよう、就職相談を始めとして、学生に対する就業体験（インターンシップ）や地域のボランティア活動の奨励、資格試験対策講座等の企画の立案、提供を行っています。詳しくは表1をご覧下さい。本年度は、主に新潟県内外の企業を訪問し、インターンシップの受け入れの依頼や3年後の求人の依頼を進めています。学生に対しては、夏休みと春休みにインターンシップを実施しました。今後も企業関係者のご協力を得て、インターンシップや社会見学等の企画を実施し、多様な学生ニーズに応え、キャリア支援センターの業務内容を充実していきたいと考えております。宜しくお願いいたします。

表1　キャリア支援センターの主な業務

就職相談	求人票の読み方やエントリーシートの作成、履歴書の書き方などの相談
企業開拓	職員が県内外の企業及び業界団体等へ訪問し、企業と大学の連携体制を構築する
社会見学	県内外の企業の営業部門、工場、研究所、及び県議会、卸売市場、証券取引所などを訪問するツアーを企画
インターンシップ	学生が2週間から1ヶ月程度の期間、企業や地方自治体、国連機関等の中で研修生として働き、就業体験をする
セミナー	学外の企業関係者による講演会を実施する。就業体験や海外留学での体験を伺い、さらに通訳や栄養士、保育士などの専門職での経験等を聞くセミナーを企画する
ボランティア	学生のボランティア活動を推奨し、学外団体から依頼があった国際協力、環境、福祉などのボランティア活動について、学生へ情報提供をする
就職対策講座・資格対策講座	社会人マナー講座を始めとして、公務員対策講座、コンピュータ活用講座などの資格試験・就職対策講座を開催する

次号では、「**国際交流センター**」をご紹介いたします。

学科紹介

INTRODUCTION TO THE DEPARTMENT

国際地域学部　国際地域学科

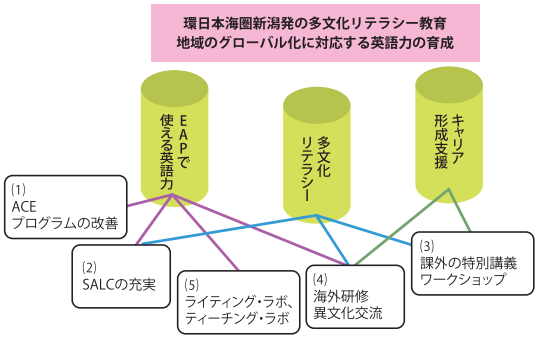
文科省大学教育推進プログラムに採択

開学初年度目玉のひとつ「環日本海圏新潟発の多文化リテラシー教育」

大学教育推進プログラム採択の意義

文部科学省が公募した大学教育推進プログラムに、本学が申請した「環日本海圏新潟発の多文化リテラシー教育」（以下「多文化リテラシー教育」と言います。）の取組が選定されました。

全国の大学等から649件もの申請があり、その中から選定されたのが僅か96件。文科省は、この96件を、達成目標が明確で、且つ教育効果が期待できる取組として選定し、財政的な支援を行います。本学の「多文化リテラシー教育」もそういった取組の一つとして選定されたわけです。



「多文化リテラシー教育」の目的や内容

「多文化リテラシー教育」は、北東アジア交流における我が国の日本海側の窓口として重要な位置にある新潟県のポテンシャルを活かし、地域を発展させることができる人材を育成することを目的としています。

この取組は三つの柱からなります。一つは国際共通語としての英語の実践的言語能力の伸長を図る取組です。コミュニケーション力と専門を学ぶための英語力の観点を重視したACEプログラム（Academic Communicative English）に加えて、語学学習支援施設であるセルフ・アクセス・センター（SALC）の学習システムや教材の拡充による自学自習環境の改善・強化や海外英語研修の充実が主な内容で、定期的に行うTOEFLなどの資格試験により学習の成果を測定します。二つ目は、国際的諸情勢の理解、新潟や日本の「自文化」理解、北東アジア諸国の社会・文化についての多面的理解を内容とする多文化リテラシーの修得を目指す取組です。国内だけでなく韓国や米国から外部講師を招いての特別講義やワークショップ、米国での海外英語研修の中に「多文化リテラシー講座」を組み込むなど幅広い学びを提供し、教育効果を高めます。三つ目は、北東アジアに焦点を当てたビジネス英語教材開発や学生のロールモデルとなり得る多彩な講師陣の特別講義によるキャリア形成支援の取組です。

文科省の支援を受けながら、これら三つの取組を進めることで、言わば「国際人」の必需品である「実践的英語力」、多様な文化を多面的に理解する力「多文化リテラシー」を身に付けるとともに、自らの進路を真剣に考えることで、学習のモチベーションを高めていくことを目指しています。

■ SALC（サルク）

SELF ACCESS LEARNING CENTER

セルフ・アクセス・センター

【Self Access Learning Center（SALC）】

全学学生が利用できる語学学習支援施設です。施設内には「英語メンター」がおり、英語の自学自習方法などについて学生の相談にのっています。今回の文科省の支援を受けてPCや教材が拡充されるだけでなく、22年度には新たに建設される「増築棟」に本格的なセンターが整備される予定です。

■ 特別講義

SPECIAL LECTURE

特別講義

11月6日に行われた特別講義
新潟大学国際センター准教授の足立祐子先生をお招きして「異なる文化におけることばの役割　～日本語教育から多文化リテラシーを考える～」と題する特別講義を開講しました。
また同日、本学専任講師のレオン先生と御夫人レイチェル・レオンさんによる「Language use in a multilinguistic society: A Singaporean's perspective」と題する英語での講義が行われました。

学友祭へ 行こう!!

Let's go to Gakuyuusai

中央ロビーに設営したイベント会場

第47回目の県立新潟女子短期大学及び新潟県立大学合同の学友祭が10/31㈮、11/1㈯の二日間 盛大に行なわれました。

今年のテーマは「LOVE～ありがとう県短 いくぞ県大!!～」です。
このLOVEには今まで愛され続けた県短への感謝の気持ちと、次の県大が皆様に愛されますようにという願いを込めてつけました。サブタイトルは「愛」をこめて頭文字を「あ」と「い」からはじまる～ありがとう県短いくぞ県大!!～にしました。この愛に包まれた学校で学生が主体となって作り上げた学友祭になりました。

エコ素材の作品展

マタニティスクール

子どもの虐待防止訴え

県立女子短2年生17人 自立支援へ募金も

9月から学生たちが取り組んでいた「オレンジリボンキャンペーン」の集大成として、県内十二の会場で、来場者に「子どもの虐待防止」を呼びかけるとともに、募金を募った。

31日の新潟市中央区の万代シティ前。通行人に「オレンジリボンキャンペーン」を行った。学生たちは紙粘土で作られたオレンジのリボンを配り、街ゆく男性に「お子さんへの愛情を表現してください」と呼びかけた。

生活科学系の学生は、子どもへの虐待を防ぐ活動を続ける「オレンジリボンキャンペーン」の趣旨に賛同し、今年、初めて参加した。

9月からボランティアの学生たちが、紙粘土でオレンジのリボンを作り、街頭で配ったり、ポスターを張ったりしていた。

ことしは、宗教施設などを出た子どもたちが、なかなか仲間を見つけられず、孤立する傾向があるとの指摘もあることから、学生たちはキャンパスの一角に特設ブースを設け、来場者に「虐待」の実態を説明するパネルを展示するとともに、「オレンジリボンキャンペーン」の趣旨を説明した。

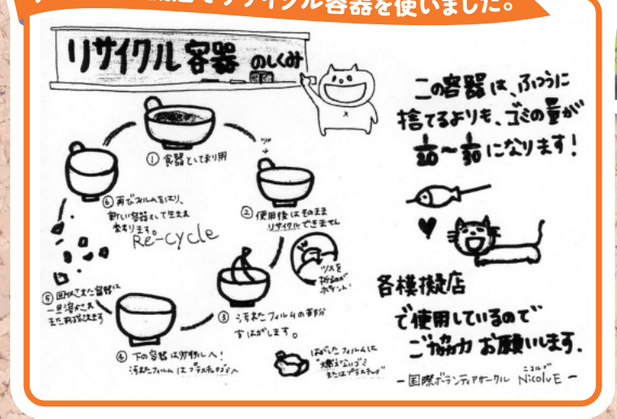
9月からボランティアの学生たちが、紙粘土でオレンジのリボンを作り、街頭で配ったり、ポスターを張ったりしていた。

会場では、未成年の子どもたちに向けたスマッセーなどを出た子どもたちが、なかなか仲間を見つけられず、孤立する傾向があるとの指摘もあることから、学生たちはキャンパスの一角に特設ブースを設け、来場者に「虐待」の実態を説明するパネルを展示するとともに、「オレンジリボンキャンペーン」の趣旨を説明した。

キャンペーンに賛同した高橋登美さん（19）は「虐待が社会問題になっていることを初めて知りました。お子さんへの愛情を表現してください」と呼びかけていた。

“児童福祉演習・オレンジリボンキャンペーン”
学友祭の取り組みが日報にのりました。
09.11.2 新潟日報朝刊

すべての模擬店でリサイクル容器を使いました。



生け花の展示

模擬店のクレープ

学生の声

STUDENT'S VOICE

新しい大学を創り上げようと「はじめの一歩」を踏み出した学生達。1セメスターを終え、少しずつ全容が見え始めた11月中旬に、個性豊かな6人にお話をうかがいました。

1. 新潟県立大学への志望理由
2. 大学に来て驚いたこと
3. 熱中していること
4. 将来の夢
5. 学内のお気に入りの場所

人間生活学部健康栄養学科
甲斐杏里
佐渡出身

1. 管理栄養士、栄養教諭の資格が欲しくて。県内の大学がよかったから。
2. 先生がみんな優しい 食堂がちょっと小さい と思った。
3. サークル活動と、いろんな料理をつくること。楽しいです
4. 栄養教諭になるっ!!
5. 駐車場から見る校舎。晴れてる時とか、空と図書館のコラボがとってもキレイです

国際地域学部国際地域学科
中束友幸
国連軍縮会議及び国連グローバルセミナーへの参加
夏季期間中の在京各国大使館インタビュー活動
群馬県出身

1. 公立雪国（スキーをするから）国際関係が学べる
2. 野球の出来るグランドが無い学生と先生の距離が近い規模が小さい
3. ピアノ スキー 海外ドラマ
4. 海外で働く国際関係の仕事
5. 3116（ピアノがある）

人間生活学部子ども学科
伊藤可奈恵
新潟県魚沼市出身

1. 祖父母の介護をしながら通える大学へ行きたかったから。
2. 予想以上に人数が少なかった。先生方のサポートが手厚い。もっと自由に授業が選べると思ったけれど、そうでもなかった。
3. 散歩 ものづくり
4. 模索中
5. 1号館のエントランス

人間生活学部子ども学科
中澤真美
兵庫県出身

1. 興味がある福祉と保育が両方学べて新しい大学の1期生だということに魅力を感じ、自分はこの大学でどんな力を発揮できるか確かめたいと思ったからです。
2. 白新線のドアがボタン式だったこと。むっちゃ寒いのに雪がなかなか降らないこと。イントネーションの違い。
3. サークルで近所の養護学校へ伺って実際にさまざまな障がいをもつ子ども達と触れ合うことです。子ども達から得たことを今後に活かしていこうと努力しています。
4. 子ども達1人1人に寄り添う支援ができる保育士になりたいです。
5. 私のお気に入りの場所はSALCです。この部屋では英語のみで会話をしなければいけないスペースがあり、子ども学科の私にとってとても新鮮な空間であり、英語を身近に感じることができます。

人間生活学部健康栄養学科
堀越さな恵
宮城県仙台市出身

1. 管理栄養士の受験資格はもちろん・・・①実家から出れる。②海外研修に行ける。
2. 先生がフレンドリーで、お菓子食べたり、お話ししたりすること！「ちゃんとしなきゃいけない・・・」っていう不安が消えてうれしかった♪"
3. 劇研!!（新潟大学演劇研究部）丁度この前、初舞台に立って、みんなと協力して、泣いて、超青春です☆劇研最高!!
4. 女優！あ、もちろん、管理栄養士の資格をとって、それを活かして、自己管理したい。そして、メディアを通して人に伝えたいです♪"
5. いろんな先生の研究室☆恵美子先生とか宮西先生の部屋が大好き

国際地域学部国際地域学科
皆川真理恵
国際ボランティア活動、
NVC主催ベトナムスタディーツアー参加
新潟市西区出身

1. 先生と学生の距離が近い！新しい学校のパワーを感じた！
2. 英語の授業が、これでもかって位、重視されていた！外国人（英語）の先生がすごい多かった！
3. 新潟にいる留学生と交流すること。同世代の留学生との会話は、とっても刺激的で楽しいですよ！この冬には、世界各国のお正月を紹介する交流パーティーを企画しています。この大学にも留学生増えるといいなー
4. まだ決まっていないけど、色んな国に行きたいです。現地になじんで生活するのがあこがれです・・・パスポートをハンコでいっぱいにするのが今の目標です!!
5. 裏玄関の並木道

この第一期生達はどんな伝統を生み出していくのでしょう。充実した学生生活の中で、夢の実現に向けて突き進んで欲しいものです。

教員の横顔

A PROFILE OF TEACHERS

国際地域学部　国際地域学科

教　授　山 中 知 彦

TOMOHIKO YAMANAKA

国際地域学科で地域政策、地域デザインなどを教え、新潟の地域づくりの担い手を育てるために、当地に赴任してきました。

本学で地域を学ぶ利点は、第一に県域に保たれている稀有の地域多様性にあります。地域を学ぶには、書物や講義は手掛かりに過ぎません。住民の方々と触れ合う現場こそが最高の教場で、学生にとっての教師は現場への案内人なのです。その意味で、湊町としての歴史を歩み、周辺の郷村地域と一体化して政令市となった新潟市、地域固有の環境・文化のミクロコスモスともいえる佐渡や粟島、上越・長岡・新発田・村上をはじめとする城下町、全県に広がる雪深い中山間地域、さらに環日本海の国際地域間交流と、地域を学ぶための多様なフィールドが新潟には存在します。第二に、本学の教育プログラムが挙げられます。コンパクトなキャンパスの中に、地域環境をはじめ、国際社会・比較文化・東アジアという関連コースはもとより、食物や福祉を学ぶ学科が備わり、国際地域間交流・地域文化から衣食住に至る地域の基本を考える機会が身近に存在し、さらにこよなくHOME TOWNを愛し英語のコミュニケーション教育他を担うネイティブの先生方から、多文化的視点がふんだんに提供されることも、他大学にはない本学の魅力です。

このような本学の優れた教育環境をいかし、学生達を鍛えて、地域や世界に羽ばたく人材を育てていきたいと思います。

国際地域学部　国際地域学科

助　教　李　佳

LI JIA

今年4月に本学に着任しました. 日本での生活は9年目に入りましたが, 新潟での生活は初めてです. 2008年3月に名古屋大学大学院国際開発研究科を修了した後, 愛知大学国際中国学研究センターで研究員として一年間勤めました. 本学で初めての教育職に就きました. 新潟県立大学とともに成長していきたいと考えています.

私の専門は開発経済学です. とりわけ中国の計画経済から市場経済への経済移行に関する研究をしています. 私は, 銀行員であった経緯もあり, 金融部門の発展に焦点を当てています. 昨年からは, 自然科学者とも協働して, 中国の計画経済期の経済開発が自然環境に及ぼした影響に関する研究にも取り組んでいます.

新潟県立大学では中国の経済について教えています. 金融システムを出発点として, 経済成長, 地域間格差, 農村部の開発, 海外直接投資等の様々な側面からアプローチします. 日中国際交流の現場で活躍できる人材を育てるために, ベストを尽くしていきたいと考えています

私は, 中国の計画経済から市場経済への変革の時代に生まれ育ったため, 社会システムの変化が人々の生活や個々の人生に与えた影響に関心を持っています. 学生の皆さんだけでなく地域の方々とともに, より良い社会システムを築くためにはどうすれば良いのかを考え続けたいです.

人間生活学部　子ども学科

准教授　植 木 信 一

SHINICHI UEKI

私自身のヨコガオ、むしろ少しナナメヨコに見たらいったい何が見えてくるのだろうかと考えてみました。私の研究分野は児童福祉です。私は成人前に父親を亡くし、5歳年下の妹とともに、母親の苦労と懸命な姿を見てきました。そこが私の児童福祉研究の原点のような気がします。

たとえば児童福祉の対象にシングルマザーの課題があります。シングルマザーの平均年収は、いわゆる「一般」世帯の3分の1程度であることがわかっています。なぜだと思いますか。女性は男性に比べて仕事の能力が劣るからでしょうか。それとも仕事を怠けているからでしょうか。そもそもシングルマザーの子どもは不幸なのでしょうか。いずれも私の経験からはノーです。むしろシングルマザーは、人生や生活を築くために人一倍懸命な姿を子どもたちの前に現します。私たち兄妹はそのような母親のヨコガオを見てきました。そして私たち兄妹は幸せでした。

懸命に生活していても社会的不利があるのは何故だろうかと気がつくこと、どのようなしくみであれば改善できるのだろうかと考えること、そしていわゆる「一般」とは何だろうかと考えること。それが私の児童福祉研究なのだと思うのです。

今の私自身のありさまが、あの時の母親のヨコガオのようであればいいなと思うのです。

人間生活学部　健康栄養学科

教　授　佐藤恵美子

EMIKO SATO

私の専門科目は調理学で範囲が広いのですが、「先人の知恵を学び、おいしい食べ物を作る」と同時に「おいしさを科学する」ことです。管理栄養士養成カリキュラムでは「食べ物と健康」に属し、「人間」と「食べ物」を結ぶ学問が調理学です。近年、食育、高齢者の食の問題を抱えており、「食育」で重要になるのは、「お袋の味、郷土（地域）の味」の大切さです。「お母さんの作ったお料理は世界で一つ、最高の味！」といった経験は多くの方がお持ちでしょう。一方、調理科学は食物のおいしさについて科学的な法則（再現）性が求められ、「おいしい食物には理由があり」、奥が深いです。研究は「ゴマ豆腐のレオロジーと食感」です。レオロジーは「変形と流動」について学ぶ学問であり、食べ物のテクスチャー(texture、食感）に大きく影響します。子供達には硬い食べ物を「噛む」こと、高齢者には咀嚼・嚥下の程度に応じた食べ物の食感が重視され、化学的な味（甘、塩辛、酸、苦、旨）だけではなく、食べ物の構造、分散状態から物理的な味（硬さ、粘り、なめらかさ等）の重要性が注目されます。さまざまなライフステージや健康状態の人に適確な食生活（栄養）への助言と精神的なエネルギー（温かさ）を与えられる管理栄養士が求められます。UNPで心と身体を鍛えて実践し、地域を担う世界に活躍できる管理栄養士として学生の皆さんを支援できたらと思います。

次号も引き続き本学教員をご紹介いたします。

入試関連情報

平成22年度（2010年度）入学者選抜試験

○入試日程と募集人員について　センター試験利用科目、個別学力検査、選抜方法等については、入学者選抜要項をご確認ください。

一般選抜

出願受付期間	試験日	募集人員		
		国際地域学科	子ども学科	健康栄養学科
1/12(火)～22(金)	2/7(日)	50名	5名	5名
1/25(月)～2/4(木)	2/21(日)	50名	20名	20名
2/22(月)～3/3(水)	3/14(日)	15名	5名	5名

○独自の入試日程により、他の国公立大学と併願が可能

本学は公立大学ですが、他の国公立大学が実施している分離・分割方式による入学選抜には参加していません。
個別学力試験を独自に行なっているため、他の国公立大学との併願が可能となっています。

新潟県立大学			2010年（平成22）	他の国公立大学	
A日程	B日程	C日程		前期日程	中・後期日程
大学入試センター試験1月16日(土)、17日(日)					
出願受付1/12(火)～22(金)	出願受付1/25(月)～2/4(木)		1月下旬	2次試験出願受付1/25(月)～2/3(水)	
試験日2/7(日)			2月上旬		
合格発表 2/17(水)	試験日2/21(日)		中旬		
入学手続 2/18(木)～24(水)		出願受付2/22(月)～3/3(水)	下旬	前期日程試験2/25(木)～	
	合格発表 3/3(水) 入学手続 3/4(木)～11(木)		3月上旬	合格発表3/1(月)～10(水)	中期日程試験3/8(月)以降
		試験日3/14(日)	中旬	入学手続締切3/15(月)	後期日程試験3/12(金)以降
		合格発表 3/20(土) 入学手続 3/23(火)～26(金)	下旬		合格発表 3/20(土)～23(火) 入学手続締切 3/27(土)

○入試に関する緊急連絡については、本学ホームページで行います。

PCホームページ▶ http://www.unii.ac.jp　携帯ホームページ▶ http://daigakujc.jp/unii/

○追試験について　平成22年度一般選抜入学試験（A・B・C日程）に係る新型インフルエンザ対応方針については、試験実施までに、本学ホームページにて発表する予定です。

○一般選抜学生募集要項（願書含む）の請求について　今年度の学生募集要項、大学案内、入学者選抜要項については以下の方法で請求できます。

〈郵送で本学へ直接請求する場合〉
「一般募集要項請求」と朱（赤文字）書きした封筒の中に、宛先を明記し240円切手を貼付した返信用封筒（角2）を同封し本学まで郵送してください。
〒950-8680 新潟市東区海老ケ瀬471番地
新潟県立大学 入試課

〈QRコードで請求する場合〉
携帯電話でQRコードを読み取り、説明に沿って請求してください。

〈大学のホームページより請求する場合〉
本学のホームページへアクセスして頂き、案内に沿って請求してください。
http://www.unii.ac.jp
※QRコード、ホームページからの資料請求については、テレメールを利用したものになります。

ご案内

「地域と大学を考えるシンポジウム」開催の御案内

日　時／平成22年1月21日(木) 13:30～15:40
会　場／クロスパルにいがた　4Ｆ映像ホール
◆1部：基調講演（13:35～14:35）
「社会が求める大学とは」　講師：原田 **泰**氏（大和総研常務理事チーフエコノミスト）
◆2部：パネルディスカッション（14:40～15:40）

【パネリスト】
原田　**泰**氏　㈱大和総研常務理事チーフエコノミスト
北村正美氏　㈱グローバルネットコア代表取締役社長
猪口　孝　　新潟県立大学学長
【コーディネーター】
渡辺英美子氏　新潟日報社読者ふれあい部長

主催／新潟県立大学　後援／新潟県、新潟市、新潟県商工会議所連合会、新潟県商工会連合会、新潟県経営者協会、にいがたインターンシップ推進協議会、新潟経済同友会、新潟日報社（順不同）

参加ご希望の方は、電話、メール等にてお申し込み下さい。

▶ **申込・問合せ先●新潟県立大学事務局**　TEL 025-270-1300　FAX025-270-5173　メール：unp@unii.ac.jp

編集後記

師走に入り、県大(UNP) Newsletter第2号を発行することができました。今回は「学友祭」「学生の声」など、アットホームな雰囲気と学生の姿をお伝えする紙面を増やしてみました。まだまだご紹介したい事がたくさんありますので、次号を楽しみにお待ちください。また、皆様方からのご意見・ご要望をお寄せいただけます様、お願いいたします。

連絡先

新潟県立大学
〒950-8680
新潟市東区海老ケ瀬471番地
TEL：025-270-1300
FAX：025-270-5173
E-mail：unp@unii.ac.jp

新潟県立大学 東京サテライト
〒113-0024
東京都文京区西片1丁目17番8号 KSビル9階
TEL:03-5803-6955
FAX:03-5803-6971
E-mail：unptokyo@unii.ac.jp